

事業群評価調書(令和元年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主管所属	教育庁教育環境整備課
施策名	(6) 子どもたちが安心して学べる教育環境の整備	課(室)長名	日高 真吾
事業群名	② 安全で快適な学校施設の整備	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)							(取組項目)			
学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、災害時には、地域の避難場所としての役割を果たします。このため、児童生徒及び保護者等のニーズや社会の変化に対応できる学校施設の整備に努めるとともに、施設の老朽化等による事故が発生しないよう、計画的に改修を行っていきます。							i) 計画的な保全点検、新增改築、大規模改修			
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 建築(設計)士等専門業者への委託による外壁打診調査や職員による定期的な点検等を実施し、その点検等に基づき、県立学校の老朽化した施設の改築や大規模改修を計画的に進めるとともに、維持・補修等を随時実施した。 このことにより、県立学校施設における安全性が図られ、保全不備による事故のみならず震災による事故の発生も未然に防止できおり、最終目標に向け予定どおり進捗している。
	学校施設の保全不備による事故発生件数(県立学校)		目標値①	0件	0件	0件	0件	0件	0件(R2)	
	実績値②		0件(H26)	0件	0件	0件			進捗状況	
		②/①		100%	100%	100%			順調	

2. 平成30年度取組実績(令和元年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 平成30年度事業の実施状況 (令和元年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				平成30年度事業の成果等	中核事業	
				H29実績	うち一般財源	人件費(参考)			指標	主な目標	H29目標	H29実績			達成率
				H30実績							H30目標	H30実績			
				R元計画				R元目標							
1	取組項目 i	県立学校施設等整備費	—	3,675,742	291,627	19,310	県立学校施設を安全に保つための保全点検、改築、大規模改修、並びに教育のニーズに対応するための新築、増築、大規模改修等を実施した。 この外、維持補修のための小規模改修やグラウンド等校地整備を実施した。	活動指標	県立学校における改築工事及び大規模改修工事実施箇所数(箇所)	31	29	93%	●事業の成果 ・建築(設計)士等専門業者への委託による外壁打診調査や職員による定期的な点検等に基づき、県立学校の老朽化した施設の改築や大規模改修を計画的に進めるとともに、維持・補修等を随時実施した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・本事業を実施することにより、学校施設の安全性が図られ、保全不備による事故を未然に防止しつつ、機能的な教育環境の提供に寄与した。	○	
				2,345,773	458,523	19,132				31	31	100%			
		4,035,058		180,816	19,136	39									
		教育環境整備課						成果指標	学校施設の保全不備による事故発生件数<県立学校>(件)	0	0	100%			
									0						

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 計画的な保全点検、新增改築、大規模改修

各学校における点検結果や施設の築年数、老朽化の状態、保護者・生徒のニーズ、教育内容への対応、緊急度などに関して学校との協議を踏まえ、総合的に勘案しながら工事箇所を決定のうえ実施した。また、実施にあたっては、平成29年度の国の経済対策補正予算を活用し、本県でも平成30年3月議会において計上した補正予算を繰り越して、平成30年度に執行するなど、国の予算を有効に活用し事業を執行した。

なお、予定した大規模改修のほとんどが、既に生じている不具合を解消するための事後措置となっているのが現状であり、今後更に施設の老朽が進み、改築・改修時期の集中に伴う予算・人員両面での不足が見込まれる。このため、「長崎県公共施設等管理基本方針」に基づき施設の長寿命化や総量の適正化の検討を行いつつ、早急に予防保全型の維持管理への転換を進め、維持管理経費の平準化を図っていくことが求められる。このような状況に対応するため、関係課と協議しながら同方針に基づく施設類型ごとの個別施設計画を令和2年度までに作成していく。

4. 令和元年度見直し内容及び令和2年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	令和元年度事業の実施にあたり見直した内容	令和2年度事業の実施に向けた方向性		
			(令和元年度の新たな取組は「R元新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目 i	県立学校施設等整備費	-	⑩	<p>児童生徒が安全な環境のもと安心して学習・生活ができるよう、引き続き建築士等専門業者への委託による外壁打診調査や職員による定期的な点検等を実施しつつ、老朽化した施設の改築や大規模改修を計画的に進め、維持・補修等を随時実施する。</p> <p>今後、県立学校施設等整備に係る予算の平準化、施設の長寿命化を図るため、現在の事後措置型から予防保全型の維持管理へ転換していくことを考慮のうえ、施設ごとの個別の改修等計画を策定することとしており、令和2年度までの完成を目指し、関係課と協議を行っていく。</p> <p>なお、今後利用が見込めない施設については、引き続き建物の売却や、解体して土地の売却を行うとともに、公共のために活用する市町へは譲渡を検討するなどして適正な管理に努める。</p>	改善

注：「2. 平成30年度取組実績」に記載している事業のうち、平成30年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点